お茶の水女子大学附属学校園での実践を基にした
実践事例報告

1．都内私立女子大学

2．実践した教科等：高等学校　グローバル地理（学校設定科目）

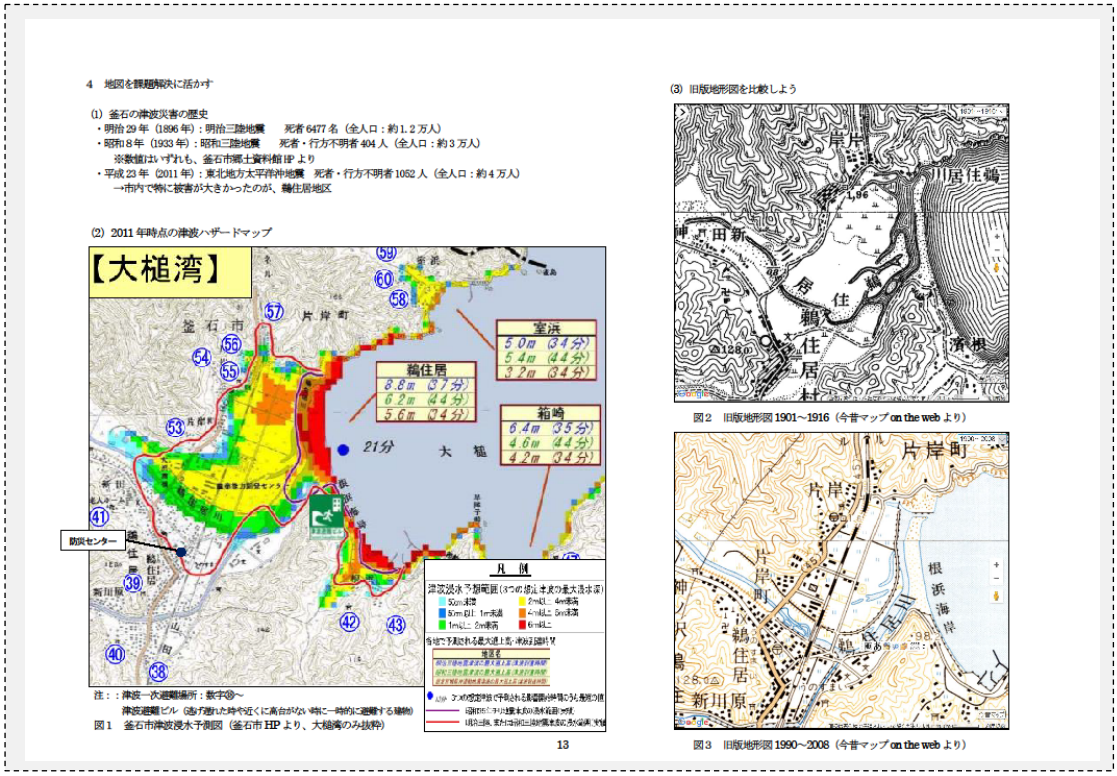
3．基にした学校園：お茶の水女子大学附属高等学校

4．基にした実践名：「地図を課題解決に活かす」

（お茶の水女子大学附属高等学校
2018 年度第２回 SGH 公開授業（2018.6.13 実施）
グローバル地理「地図を課題解決に活かす」）

5．実践の概要

地図をどのように読むかによって災害を生き延びることができるか否かに違いが出ることを実感させ，学生の地図を読む力と防災意識を高めることが本実践の目的である。対象とした学生は，教員免許を取得中の大学３年生であり，科目は地歴公民だけでなく国語や英語など他教科を専門とする学生も含んでいる。将来教壇に立つ可能性がある学生同士がグループワークをしながら地図を読み，災害に向き合うことで，今後の防災・減災に向けた効果的な対策となると考えた。



6. 実践してみた感想

地図を丁寧に読んでいくことで，こんなにもはっきり災害が見えてくることをあらためて学生は実感したように思います。地図を読む力や考える力では，個人差が大きかったものの，グループワークで助け合うことで，それぞれにとって貴重な学びとなりました。将来学校現場で活かしてくれることを期待します。以下，学生の感想の一部紹介します。

・母が宮城県気仙沼市出身なので、今日の授業を受けながら、母から聞いた話を思い出していました。授業では、このように生徒自身に考えさせていくことで、災害の風化を止められるのではないかと感じました。教科をこえて大切なことを学ぶ重要さを再認識できました。
・地理の授業は高校で受けたことがなかったので，とても新鮮でした。ただ地図の読み方を学ぶだけでなく、自分が生きていく中で大切なことを学べた。実際に地図を読みながら、予想されていなかった所で死者が多く出たところを自分で見つけたときには、正直ゾクッときました。生活とリンクさせることができる地理という学問は生きていく上でためになるので，もっと勉強すべきだと思いました。
・私を含め，地理と聞くと苦手意識を持つ人が多いと思います。特に女子は地図が読めないとか，苦手という子が多いように思います。そんな中で地図を勉強するというよりは，地図を使って勉強をするというスタイルに驚きつつも，今回のように地図を課題解決のために使うという方法だと，生徒の方から地図を使うようになるなと思いました。また，災害前と後を地図で比較すると，こんなにも変り果てるものなのかと驚き，恐ろしくなりました。
・中学社会と高校の地理歴史の免許を取得中ですが，地理は高校では全くやってこなかったので，ここまで深く地理について勉強したのははじめてというほどで，大変参考になりました。地図には本当にはかり知れないくらいの情報が詰まっていて地図だけでここまで話を深められるのが面白いなと感じました。地図記号など，ただ暗記するだけだとすぐに忘れてしまいます。今日のように実践的に使ってみることが一番の学習方法だと思いました。何の授業でもそうですが，生徒が他人事ではなく，自分事と思える授業を作成すれば課題解決が上手く進められると気づきました。
・地理の授業を受けるのは中学１年の時以来だったので，最初は正直「等高線が 10mって何？」と思って困惑してしまいました。授業のレベルも私にとってはハードルの高いものだったと思いますし，実際難しいと感じました。しかし，難しいと感じてもハザードマップや新旧地形図を比較することの重要性を知ることができましたし，等高線もグループのメンバーが教えてくれました。私は英語科の免許を取得中ですが，生徒の学力差がある中で，英語の授業を作る上でもどういうレベルの授業をするかはとても難しいところだと感じます。今回の授業のように，難しくてもみんながついていける授業は理想的だと思いました。
・私は高校１年で地理 A を学びましたが，高校で地理を学んでいない人がほとんどであることに驚きました。ハザードマップを見たことがある人の少なさに再び驚きました。知らない人が多くいるということを知った上で，災害時のことを共有することが大切だと感じました。